

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

項目	前回（3年4月判断）	今回（3年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	→

（注）令和3年7月判断は、前回4月判断以降、足下（7月末）の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、サービス消費などの一部に弱さがみられており、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、自動車で足踏みがみられるものの、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、下げ止まりつつあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている。

【各項目の判断】

項目	前回（3年4月判断）	今回（3年7月判断）	前回比較
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	→
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
雇用情勢	一部に底堅さがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	下げ止まりつつあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	→
設備投資	2年度は減少見込み	3年度は増加見込み	→
企業収益	2年度は減益見込み	3年度は増益見込み	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	→
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	→

【先行き】

先行きについては、感染拡大の防止策を講じ、ワクチン接種を促進するなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、感染の動向が内外経済に与える影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

百貨店販売は、前年の営業自粛の反動増が見られるものの、衣料品が低調であるなど、感染拡大前の水準には戻っていない。スーパー販売は、引き続き食料品を中心に堅調。コンビニエンスストア販売は、来店客数の増加や巣ごもり需要の継続により、緩やかに持ち直しつつある。乗用車販売は、普通車が前年を上回るなど、堅調に推移している。ドラッグストア販売は、前年の巣ごもり需要の反動減等が見られるものの、衛生関連商品や食料品を中心に堅調に推移している。家電販売は、前年からの巣ごもり需要等は落ち着いているものの、引き続き堅調。ホームセンター販売は、前年の巣ごもり需要の反動減が見られるものの、アウトドア用品が好調であるなど、引き続き堅調に推移している。旅行取扱高は、国内旅行において前年の急減の反動増となっているものの、厳しい状況は継続している。このように、個人消費は新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- 1-3月期と比べると若干客足が戻ってきたように感じているが、それでも2019年度比では6割程度。引き続き高額品が富裕層を中心に好調である一方、外出自粛、リモートワークの影響により、衣料品は苦戦した。(百貨店、中堅企業)
- 売上、集客数とも4-5月で底を打っていずれも回復基調にあり、コロナ前の水準まではまだ戻っていないものの、ワクチン接種が浸透し新規感染者数が抑制される状況が続けばこの基調を保てるだろう。(百貨店、大企業)
- 巣ごもり消費や特例給付金の効果は薄れてきているものの、前々年と同程度には売れており、堅調に推移している。ただ、巣ごもり消費や特例給付金の影響も一巡しており、先行きは不透明。(家電大型専門店、中堅企業)
- 感染対策商品や巣ごもり需要対応商品が前年に届かず苦戦している中、園芸用品には復調の兆しがでているほか、アウトドア用品が好調に推移。売上、客数とも前々年度と同水準には戻りつつある。(ホームセンター、大企業)
- 家族向けのロード店は好調であるが、繁華街のビルの中にある店舗は苦戦。(飲食、中小企業)
- 3-4月は、昨年春にずれ込んだ修学旅行や会員の入場者が増加したものの、5月以降は、緊急事態宣言の影響により再び大幅に減少。足下では徐々に持ち直してはいるものの、コロナ禍前の5割以下の水準。(娯楽、大企業)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直している」

輸送機械の自動車は、一部に半導体不足の影響が見られるものの、緩やかに持ち直している。鉄鋼は、海外向けを中心に緩やかに持ち直している。電子部品・デバイス、車載向けを中心に回復の動きが見られる。造船は、受注残は減少傾向にあるものの、一定の操業を維持している。このように、生産活動は緩やかに持ち直している。

- 半導体不足により5月は工場の操業を停止した日もあり減産となった。6月から生産台数は回復しつつあり、半導体不足が解消すると思われる9月以降は挽回の生産計画を立てている。(輸送機械、中小企業)
- マンション等デベロッパー向け建設資材の動きは弱いものの、海外企業の設備投資意欲が戻りつつあるため輸出用鋼材の需要が高まってきている。(鉄鋼、大企業)
- 車載向け及び家電向け半導体を中心に好調であり、特に受注の多い自動車向け半導体の製造ラインを増強した。(情報通信機械器具、大企業)

■ 雇用情勢 「下げ止まりつつあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている」

有効求人倍率は、足下下げ止まっており底堅さがみられるものの、新規求人数及び新規求職者数は前月を下回っており、雇用情勢は新型コロナウイルス感染症の影響により弱い動きとなっている。

- 期間工、派遣社員とも今は充足しているが、半導体不足解消により増産見通しが立てば、募集人数を増加していく予定。(輸送機械、中小企業)
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、例年と比較すると業務量が3分の1となったため、雇用調整助成金を活用して、従業員の休業措置を行っている。(宿泊、中堅企業)
- 求人全体は改善の動きがみられているが、緊急事態宣言の再発令に伴い、営業時間短縮を要請された飲食業や小売業で求人数が減少している。(労働局)

■ **設備投資 「3年度は増加見込み」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」3年4-6月期

- 製造業では、「電気機械器具」等で減少見込みとなっているものの、「非鉄金属」、「窯業・土石製品」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「建設」等で減少見込みとなっているものの、「不動産」、「小売」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

- 今年度は、維持更新に加え、物流システムの全面改修を行うため、増加見込みとなっている。(窯業・土石製品、大企業)
- 今年度は、数店舗の大型改装等を予定しており、増加見込みとなっている。(小売、中小企業)

■ **企業収益 「3年度は増益見込み」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」3年4-6月期

- 製造業では、「情報通信機械器具」等で減益見込みとなっているものの、「電気機械器具」、「窯業・土石製品」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「学術研究、専門・技術サービス」等で減益見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「宿泊、飲食サービス」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

■ **住宅建設 「前年を上回っている」**

- 新設住宅着工戸数でみると、持家、貸家、分譲住宅及び給与住宅が増加していることから前年を上回っている。

■ **輸出 「前年を上回っている」**

- 輸出 (円ベース) は、前年を上回っている。なお、輸入 (円ベース) は、前年を上回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査 (3年4-6月期) の景況判断BSIでみると、3年4-6月期は、引き続き「下降」超となっている。先行きについては、3年7-9月期は、「上昇」超に転じる見通しとなっている。

3. 各県の総括判断

	前回 (3年4月判断)	今回 (3年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
福岡県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	➡	個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、サービス消費などの一部に弱さがみられており、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、自動車で足踏みがみられるものの、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、下げ止まりつつあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている。
佐賀県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	➡	個人消費は、百貨店・スーパー販売額等が前年を上回るものの、ドラッグストア販売額等が巣ごもり需要の反動で前年を下回るなど、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、下げ止まりつつある。
長崎県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	➡	個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、一部に底堅さがみられるものの、感染症の影響により、弱い動きとなっている。